




AKAI[®]
PROFESSIONAL

MPCX
MUSIC PRODUCTION CENTER

クイックスタートガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
2. 注意事項を守ってください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。
液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むそのほかの音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所をご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。

[WEB] <http://akai-pro.jp/>

AKAI
PROFESSIONAL

<お問い合わせ>

インミュージック ジャパン株式会社

カスタマーサポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23

オーク南麻布ビルディング6階

URL : <http://akai-pro.jp/support/>

クイックスタートガイド

はじめに

特徴

- ・ PC を使わずにハード本体のみで動作するスタンドアローン MPC
- ・ 10.1 インチ高解像度マルチタッチディスプレイ
- ・ MPC 2.0 ソフトウェア・コントローラーとしても機能
- ・ PHONO、ライン、マイクなど多彩な入力系統
- ・ ビンテージシンセをコントロール可能な CV/ゲート出力
- ・ 多彩な表現を可能にする 16 Q-Link ノブ
- ・ 2 つの MIDI 入力端子と 4 つの MIDI 出力端子
- ・ 16GB のオンボードストレージ搭載(10GB 以上のサウンドコンテンツを含む)
- ・ 2GB RAM
- ・ フルサイズ SD カードスロット
- ・ 拡張可能な 2.5" SATA ドライブコネクタ(SSD または HDD)
- ・ USB ドライブや MIDI コントローラー用の 2 つの USB 3.0 A 端子

同梱品

- ・ MPC X 本体
- ・ 電源アダプター
- ・ USB ケーブル
- ・ 仕様概要ガイド
- ・ ソフトウェアダウンロードカード(英文)
- ・ クイックスタートガイド
- ・ 安全および保証マニュアル(英文)

重要: akai-pro.jp にアクセスし、MPC X の Web ページでユーザーガイドをダウンロードしてください。

サポート

この製品に関する最新情報(ドキュメント、技術仕様、システム要件、互換性情報など)および製品登録については、akai-pro.jp をご覧ください。

追加の製品サポートについては、akai-pro.jp/support をご覧ください。

セットアップ

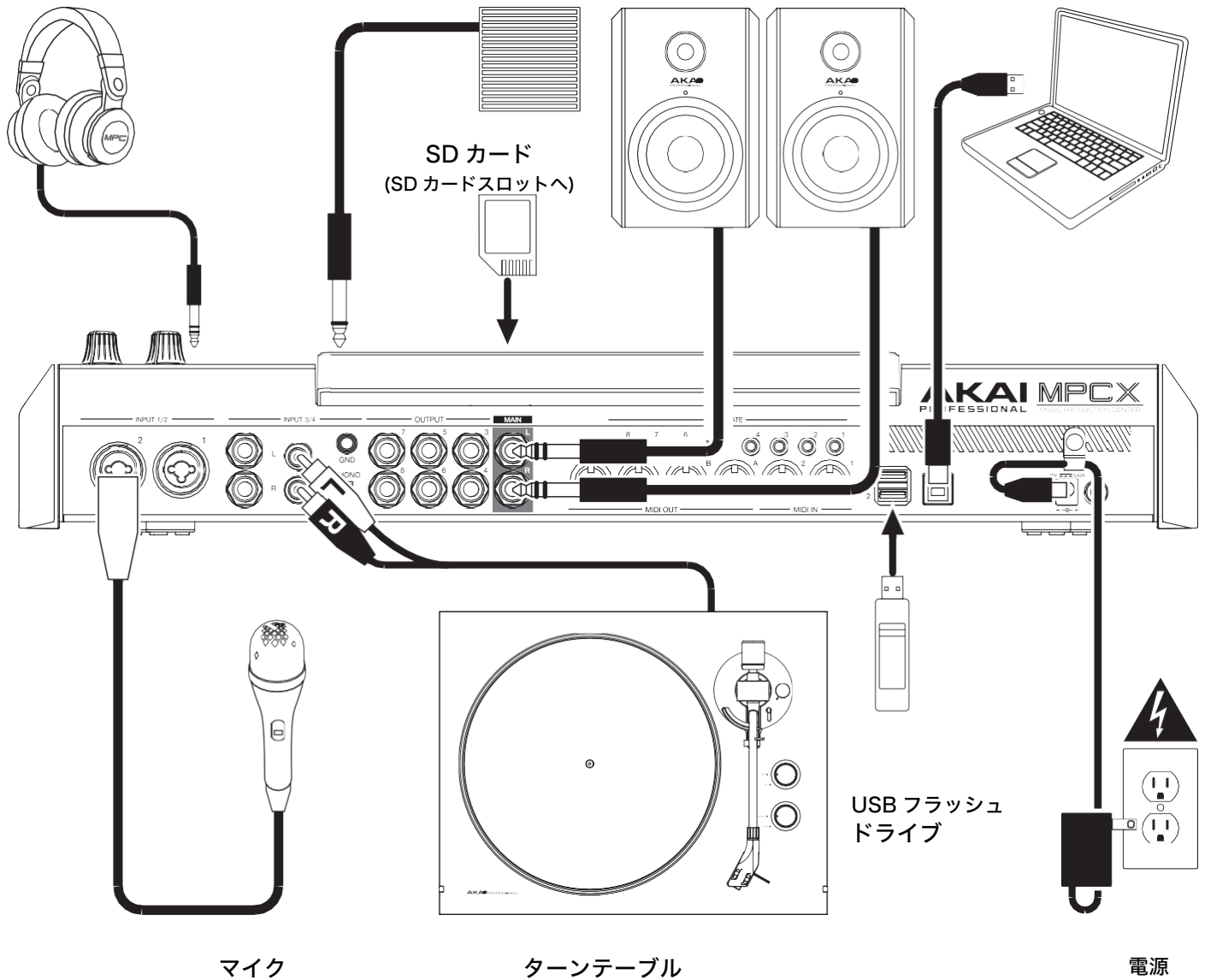
はじめに>同梱品に記載されていない項目は別売となります。

ヘッドフォン
(フロントパネルのヘッドフォン
出力へ)

フットス
イッチ
(FS 1 へ)

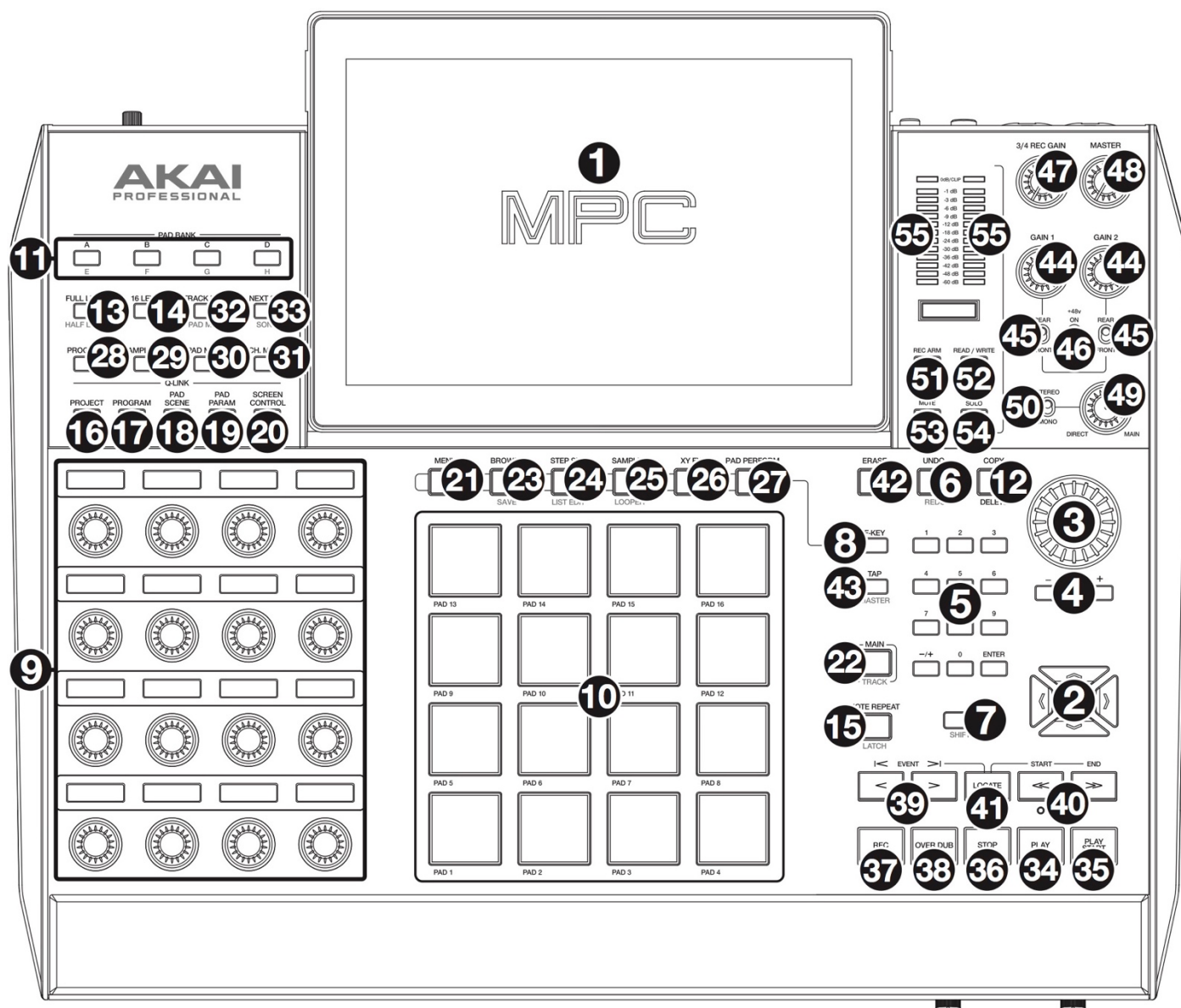
パワードモニター

コンピューター



機能

トップパネル



ナビゲーション&データ入力コントロール

1. ディスプレイ：フルカラー・マルチタッチディスプレイは、MPC X の現在の操作に関連する情報を表示します。ディスプレイに触れて(ハードウェア・コントロールを使用して)MPC インターフェイスをコントロールします。いくつかの基本的な機能を使用する方法については、[操作](#) を参照してください。

ヒント：ディスプレイの角度を調整する場合は、背面パネルのスタンドを使用して所定の位置に固定することをお勧めします。

2. カーソル：カーソルボタンを押すと、ディスプレイに表示されているメニューとオプションのフィールドをナビゲートできます。
3. データダイヤル：このダイヤルを回すと、使用可能なメニューオプションをスクロール、またはディスプレイ内の選択したフィールドのパラメーター値を調整できます。
4. -/+：ディスプレイで選択したフィールドの値を増減します。

5. 数字キーパッド：ディスプレイの選択されたフィールドが数字の場合は、これらの番号ボタンをテンキーパッドとして値を入力できます。キーパッドの Enter キーを押して入力します。
6. Undo/Redo：最後の操作が取り消されます。
Shift キーを押したままこのボタンを押すと、元に戻した最後の操作がやり直されます。
7. Shift：このボタンを押しながらいくつかのボタンを押すと、2次機能(赤い文字で表示)にアクセスします。
8. F-Key：このボタンを押しながらディスプレイ下段に表示されている6つのボタン(Menu、Browse、Step Seq、Sampler、XYFX、Looper)を押すと、6つのオプションの中の1つを選択できます。つまり、ディスプレイのボタンの1つをタップする代わりに、その下のハードウェア・ボタンを押して選択することができます。

パッド & Q-Link コントロール

9. Q-Link ノブ：これらのタッチセンサー式ノブを回して、さまざまなパラメーターや設定を調整します。各ノブの上の表示ストリップは、それが制御しているパラメーターと現在の値または設定を示します。
10. パッド：これらのパッドを押して、ソフトウェアのドラムヒットやその他のサンプルをトリガーします。パッドはベロシティ感知、および感圧性であり、演奏に対して即座に反応し直感的です。パッドは、演奏する強さに応じて、さまざまな色に点灯します(低ベロシティ時の黄色から高ベロシティ時の赤まで)。また、点灯する色はカスタマイズすることもできます。
11. パッドバンク：パッドバンク A~D にアクセスします。
Shift キーを押しながらこれらのボタンを押すと、パッドバンク E~H にアクセスできます。
12. Copy/Delete：このボタンを押すと、あるパッドを別のパッドにコピーできます。From Pad フィールドが選択されたら、ソースパッド(コピーしたいパッド)を押します。(すべてのパッドの)To Pad グラフィックが選択されたら、コピー先のパッドを押します。複数のコピー先パッドを選択でき、異なるパッドバンクのパッドを選択することもできます。続行するには Do It を、前の画面に戻るには Cancel をタップします。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、現在選択されているパッドのすべてのレイヤーからサンプルが削除されます。
13. Full Level/Half Level：このボタンを押すと、フルレベル機能が有効/無効化されます。有効時には、演奏する強さに関わらず、パッドは常に最大ベロシティ(127)でサンプルをトリガーします。
Shift キーを押したままこのボタンを押すと、ハーフレベル機能が有効/無効化されます。有効時には、パッドは常にサンプルを半分のベロシティ(64)でトリガーします。
14. 16 Level：16 レベル機能を有効/無効化します。有効時には、最後にヒットしたパッドがすべての16個のパッドに一時的にコピーされます。パッドは元のパッドと同じサンプルを再生しますが、使用する力の大きさにかかわらず、パッド番号ごとに選択可能なパラメーターの値が増加します。
15. Note Repeat/Latch：このボタンを押しながらパッドを押すと、パッドのサンプルが繰り返しトリガーされます。繰り返される速度は現在のテンポと時間補正の設定に基づいています。
Shift キーを押したままこのボタンを押すと、ノートリピート機能が「ラッチ」されます。ラッチ時には、Note Repeat ボタンを押し続ける必要はありません。もう一度 Note Repeat を押してアンラッチします。
16. Project：現在選択されているプロジェクトに関連するパラメーターを Q-Link ノブで調整します。
17. Program：現在選択されているプログラムのパラメーターを Q-Link ノブで調整します。
18. Pad Scene：現在選択されているパッドに割り当てられているパラメーターを Q-Link ノブで調整します。
19. Pad Param：Q-Link ノブを使用して16のパッドすべての1つのパラメーターを調整できます。各 Q-Link ノブは、4x4 レイアウトの同じ番号と位置のパッドに対応しています。
20. Screen Control/Edit：ディスプレイに表示されているように、現在選択されているモードのパラメーターを Q-Link ノブで調整します。
Shift キーを押したままこのボタンを押すと、Q-Link ノブに他のパラメーターを割り当てることができる Q-Link 編集モードに入ります。

モード & ビュー・コントロール

21. Menu: メニューが開き、利用可能なモードを選択できます。オプションをタップすると、そのモードに入ります。
22. Main/Track: 最もよく使用される機能の概要であるメインモードが表示されます。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、各シーケンスのトラックの概要が表示されます。
23. Browse/Save: ブラウザーが表示されます。ブラウザーを使用すると、コンピューターの内蔵ハードディスクと外付けハードディスクを操作して、サンプル、シーケンス、ソングなどを読み込むことができます。フィルターボタンとユーザーが定義可能なフォルダーを使用すると、ワークフローに簡単に適応できます。読み込む前にサンプルをプレビューする事もできます。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、現在のプロジェクト(サンプル、プログラム、シーケンス、およびソングを含む)を保存します。
24. Step Seq/List Edit: ステップシーケンサーが表示され、パッドを「ステップボタン」として使用してシーケンスを作成、編集することができます。従来のステップシーケンサー・スタイルのドラムマシンの経験をシミュレートします。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、グリッド表示の代わりに、リスト編集ビューを使用してシーケンスを表示します。
25. Sampler/Looper: プロジェクトで使用するオーディオサンプルを録音できるサンプラーを表示します。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、リアルタイムでオーディオを録音またはオーバーダビングすることができる Looper が表示され、ライブパフォーマンスやスタジオでの自発的な瞬間に最適なツールとなります。作成したループは、サンプルとしてエクスポートし、プロジェクトで使用することができます。
26. XYFX: XYFX モードを表示するには、このボタンを押します。XYFX モードでは、タッチスクリーンが XY パッドに変身し、各軸がエフェクトパラメーターの範囲を表します。タッチスクリーン上で指を触れたり、指を動かしたりすると、現在の位置が 2 つのパラメーターの現在の値を決定します。このモードを使用すると、トラックに面白いエフェクト・オートメーションを作成することができます。
27. Pad Perform: このボタンを押すと、パッドパフォーム・モードが表示されます。ここでは、創造的な演奏オプションのための、音階/モード、コード、またはプログレッションをパッドに割り当てることができます。
28. Prog Edit: プログラム編集モードを表示するには、このボタンを押します。プログラム編集モードには、プログラムを編集するためのすべてのパラメーターが含まれています。
29. Sample Edit: このボタンを押すと、さまざまな処理機能でサンプルを編集できるサンプル編集モードが表示されます。 k
30. Pad Mixer: プログラムのレベル、ステレオパン、ルーティング、エフェクトを設定できるパッドミキサーが表示されます。
31. Ch. Mixer: レベル、ステレオパン、トラック、プログラム、リターン、サブミックス、マスターの設定を行うことができるチャンネルミキサーが表示されます。
32. Track Mute/Pad Mute: シーケンス内のトラックを簡単にミュートしたり、トラックごとにミュートグループを設定したりできる、トラックミュート・モードが表示されます。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、プログラム内のパッドを簡単にミュートしたり、プログラム内のパッドごとにミュートグループを設定したりできる パッドミュートモードが表示されます。
33. Next Seq/Song: ネクストシーケンス・モードが表示されます。このモードでは、パッドを弾くだけで別のシーケンスをトリガーでき、ソングの構造をリアルタイムで変更できます。ライブ演奏に非常に便利な機能と言えるでしょう。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、ソングモードが表示され、曲を作成するためにシーケンスを特定の順序および/または繰り返しで並べ替えることができます。簡単な即席の作曲のために、再生中にソングの構造を編集することができます。

トランスポート & レコーディングコントロール

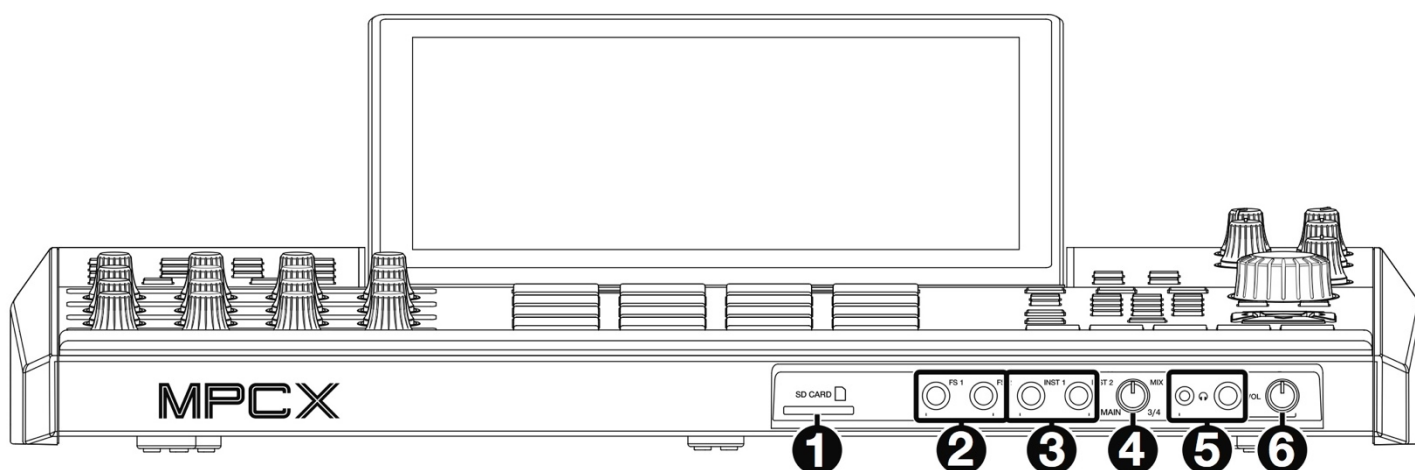
34. Play: オーディオ・ポインターの現在の位置からシーケンスが再生されます。
35. Play Start: シーケンスが開始点から再生されます。
36. Stop: 再生を停止します。
37. Rec: シーケンスを録音するには、このボタンを押します。Play または Play Start を押して録音を開始します。(Overdub を使用するのではなく)この方法で録音すると、現在のシーケンスのイベントは消去されます。録音中にシーケンスが一度再生されると、オーバーダビングが有効になります。

38. Overdub： 以前に録音したノートイベントを上書きすることなく、ノートイベントをシーケンスで録音することができます。オーバーダブは、録音の前または途中で有効にすることができます。
39. </> (Event |</>|)： オーディオ・ポインターを左右に 1 ステップずつ移動します。
Locate を押しながらこれらのボタンの 1 つを押すと、オーディオ・ポインターがシーケンスグリッドの前/次のイベントに移動します。
40. <</>> (Start/End)： オーディオ・ポインターを左右に 1 小節ずつ移動します。
Locate を押しながらこれらのボタンの 1 つを押すと、オーディオ・ポインターがシーケンスグリッドの先頭または末尾に移動します。
41. Locate： このボタンを押し続けると、</>および<</>>ボタンの二次機能(Event|</>|および Start / End)を有効化します。
42. Erase： シーケンスが再生されているときに、このボタンを押しただまパッドを押すと、現在の再生位置のパッドのノートイベントが削除されます。これにより、再生を停止することなくシーケンスからノートイベントを簡単に削除できます。
43. Tap/Master： 希望のテンポに合わせてこのボタンを押すことで、ソフトウェアに新しいテンポ(BPM)を入力することができます。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、現在選択されているシーケンスが独自のテンポに従うか(ボタンがオレンジ色に点灯)、またはマスターテンポ(ボタンが赤色に点灯)のいずれに従うかを設定します。

I/O & レベルコントロール

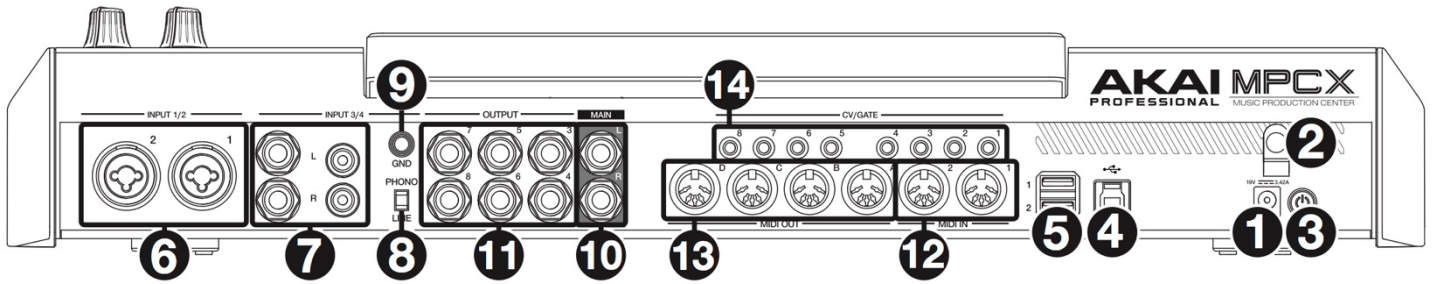
44. Gain 1/2： リアパネル Input 1/2 またはフロントパネル Inst 1/2 の入力信号のゲインを調整します。ノブの下にある Rear/Front スイッチを使って入力を決定します。レベルメーターを使って録音レベルを確認します。このノブを高いレベルに設定すると信号が歪む可能性がありますので注意してください。
45. Rear/Front： Gain 1/2 ノブが、リアパネル(Input 1/2)またはフロントパネル(Inst 1/2)、どちらの入力信号のゲインをコントロールするかを設定します。
46. Phantom Power (+48V)： Input 1/2 のファンタム電源を有効/無効化します。有効化されると、両方の入力に+48V のファンタム電源が供給されます。通常ダイナミックマイクはファンタム電源を必要とせず、コンデンサーマイクではファンタム電源が必要となることに注意してください。ファンタム電源が必要かどうかを確認するには、マイクのマニュアルを参照してください。
47. 3/4 Rec Gain： リアパネル Input 3/4 の入力信号のゲインを調整します。レベルメーターを使って録音レベルを確認します。このノブを高いレベルに設定すると信号が歪む可能性がありますので注意してください。
48. Master： Main L/R 出力の音量を調節します。
49. Direct/Main： ヘッドフォンの入出力のバランスを調整します。
Direct はフロントパネルとリアパネルの入力に接続されたすべてのデバイスの入力信号に対応します。レコーディング中は、このノブを完全に Direct 側に回すことで、ゼロレーテンシーのモニタリングを行うことができます。
Main は、リアパネルの Main L/R 出力からの出力信号に対応します。録音していないときは、このノブを完全に Main ポジション側に回し、フルボリュームの再生信号を聞くことをおすすめします。
50. Stereo/Mono： ヘッドフォンの入力信号がステレオかモノラルかを設定します。Stereo に設定すると、入力信号が分割され、INPUT1/3 がヘッドフォンの左側で聞こえ、INPUT2/4 はヘッドフォンの右側で聞こえるようになります。Mono に設定すると、入力された全ての音がモノラルミックスされ、ヘッドフォンの両方で同じ音が聞こえるようになります。
51. Rec Arm： サンプラーまたはルーパーの録音待機と、録音待機の解除を行います。(これは、シーケンサーを録音する Rec ボタンとは異なります)。
52. Read/Write： シーケンサー再生中にオートメーションを読み込むか(Read)、オートメーションを書き込むか(Write)を設定します。
53. Mute： レベルメーターの下のディスプレイ・ストリップに表示されている項目がミュートされます。通常、これは現在選択されているプログラム(パッドで演奏できるプログラム)になります。
54. Solo： 現在選択されているプログラムがソロになります。通常、これは現在選択されているプログラム(パッドで演奏できるプログラム)になります。
55. レベルメーター： その下のディスプレイ・ストリップに表示されているオーディオ信号のレベルを示します。

フロントパネル



1. SDカードスロット：標準のSDまたはSDHCカード(最大32GBまで)をこのスロットに挿入すると、MPC XからSD/SDHCカード内のファイルに直接アクセスする事が出来るようになります。
2. フットスイッチ入力(FS 1/2) (1/4" / 6.35 mm)：オプションの1/4インチ(6.35 mm)TS フットスイッチをこれらの入力に接続します。
3. インストゥルメント入力 (Inst 1/2) (1/4" / 6.35 mm)：標準の1/4インチ(6.35 mm)TSケーブルを使用して、これらの入力をオーディオソース(ギター、シンセサイザー、ドラムマシンなど)に接続します。これらの入力をそれぞれ使用するには、対応するRear/Frontスイッチ(トップパネルのGain 1/2ノブの下)をFrontに設定します。
4. ミックス・ノブ：ヘッドフォンのMainと3/4信号のバランスを調整します。MainはMain L/R出力から送られる信号です。3/4はOutputs 3/4から送られる信号です。
5. ヘッドフォン出力 (1/8" または 1/4" / 3.5 mm または 6.35 mm)：これらの標準ステレオ出力のいずれかまたは両方に、お使いのヘッドフォン(付属していません)を接続します。Mix Knob を使用して、ヘッドフォンでどの信号を聞くかを決定します。
6. ヘッドフォン音量：ヘッドフォン出力の音量を調節します。

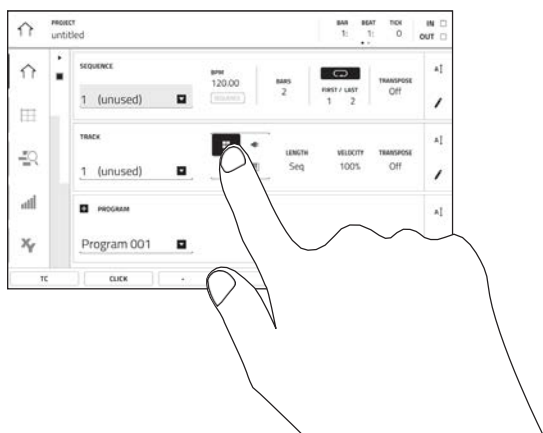
リアパネル



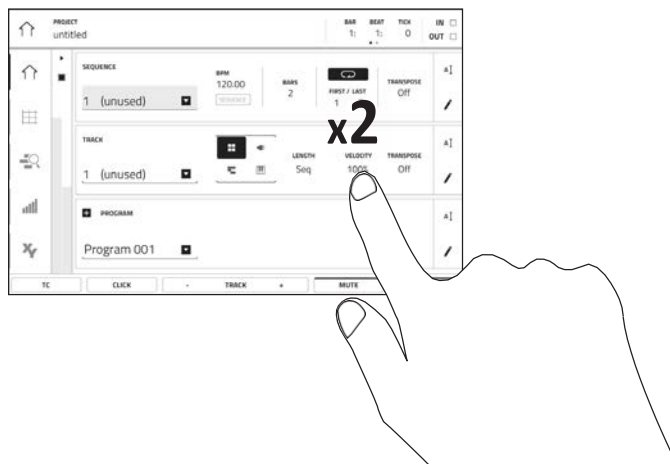
1. 電源入力： 付属の電源アダプター(19 V、3.42 A、センタープラス)をこのジャックに接続し、電源コンセントに接続します。
2. 電源アダプタークランプ： 電源アダプタークランプ： 誤って電源プラグが抜けないよう電源アダプターケーブルをクランプに固定します。
3. 電源スイッチ： MPC X の電源をオンまたはオフにします。電源投入時、このボタンを 5 秒間押し続けると、MPC X の電源が強制的にオフになります(コンピューターと同様)。
4. USB-B ポート： 付属の USB ケーブルを使用して、お使いのコンピューターと MPC X を直接接続する事が出来ます。これにより、MPC X はコンピューター上の MPC ソフトウェアと、MIDI データおよびオーディオデータを送受信できるようになります。
5. USB-A ポート： USB マスストレージクラス対応の USB メモリーや外付けハードディスクを接続して、MPC X から直接ファイルにアクセスする事が出来ます。
6. Inputs 1/2 (XLR または 1/4" / 6.35 mm)： これらの入力をオーディオソース(マイク、ミキサー、シンセサイザーなど)に接続するには、標準 XLR または 1/4 インチ(6.35 mm)の TRS ケーブルを使用します。これらの入力をそれぞれ使用するには、対応する Rear/Front スイッチ(トップパネルの Gain 1/2 ノブの下)を Rear に設定します。Gain 1/2 ノブを回してそれぞれの入力レベルを設定します。
7. Inputs 3/4 (1/4" / 6.35 mm または RCA)： 標準の 1/4 インチ(6.35 mm)TRS ケーブルまたはステレオ RCA ケーブルを使用して、これらの入力をオーディオソース(ミキサー、ターンテーブル、シンセサイザーなど)に接続します。1/4 インチ(6.35 mm)入力を使用するには、Phono/Line スイッチを Line に設定します。RCA 入力を使用するには、Phono/Line スイッチを Phono に設定します。3/4 Rec Gain ノブを回して入力レベルを設定します。
8. Phono/Line スイッチ： 使用する Input 3/4 端子に応じて、このスイッチを適切な位置に設定します。1/4"(6.35 mm)入力を使用している場合は、このスイッチを Line に設定します。RCA 入力を使用している場合は、このスイッチを Phono に設定して、フォノレベル信号に必要な追加増幅を行います。
9. アース端子： フォノレベルのターンテーブル信号を Input 3/4 の RCA コネクタに送ったときに、ハムやバズノイズが聞こえる場合、ターンテーブルがアースされていない可能性があります。ターンテーブルにアース線がある場合は、この端子に接続してください。
注：一部のターンテーブルには RCA 接続にアース線が組み込まれています。その場合には、特にアース端子には何も接続する必要はありません。
10. Main L/R 出力 (1/4" / 6.35 mm)： これらの出力をスピーカーシステムに接続するには、標準の 1/4 インチ(6.35 mm)TRS ケーブルを使用します。これらの出力から出力される信号は、マスターミックスです。Master ノブを回してボリュームを設定します。プログラムをこれらの出力にルーティングするには、Mixer フィールドが Programs に設定されているときに、Channel Mixer の Out 1、2 にルーティングを設定します。
11. Outputs 3/4、5/6、7/8 (1/4" / 6.35 mm)： 標準の 1/4"(6.35 mm)TRS ケーブルを使用して、これらの出力を外部ミキサーに接続します。これらの出力から送信される信号はフルボリューム(0 dB)となります。プログラムをこれらの出力にルーティングするには、Mixer フィールドが Programs に設定されているときに、Channel Mixer の Out 3、4、Out 5、6、または Out 7、8 にルーティングを設定します。
12. MIDI In： 標準の 5 ピン MIDI ケーブルを使用して、この入力をオプションの外部 MIDI デバイスの MIDI 出力に接続します。
13. MIDI Out： 標準の 5 ピン MIDI ケーブルを使用して、この出力をオプションの外部 MIDI デバイスの MIDI 入力に接続します。
14. CV/Gate Out： 標準の 1/8 "(3.5 mm)TS ケーブルを使用して、これらの出力をオプションの外部シーケンサーに接続します。MPC X は、この接続を介して制御電圧(CV)およびゲートデータを送信します。

操作

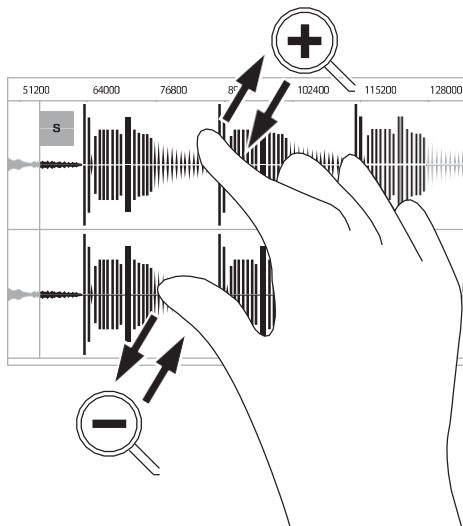
ここでは、MPC X ディスプレイの基本的な使用方法について紹介します。



ボタンまたはオプションをタップして選択します。データダイアルまたは-/+ボタンを使用して、設定や値を変更します。



ボタンをダブルタップすると、高度な編集オプションにアクセスできます。場合によっては、値を入力用のテンキーパッドが表示されます(データダイアルまたは -/+ボタンの代わり)。ディスプレイの左上部分をタップすると、前の画面に戻ります。



2本の指を広げて拡大します(例：波形の一部分など)。縮小するには2本の指を挟みます。



ディスプレイの上部にはツールバーが表示されます。ツールバーには現在のビューに関する情報(現在のトラック、シーケンス、オーディオ・ポインターの位置など)が表示されます。項目をタップして選択します。

ディスプレイ下部には、現在のビューで使用できるさまざまなボタンが表示されます。ボタンをタップして押します。

前のビューに戻るには、現在表示されているウィンドウの外側をタップするか、ディスプレイの左上部分で左矢印(←)をタップします。

付録(日本語)

技術仕様

パッド	ベロシティー、感圧式パッド、RGB バックライト x 16 バンクアクセス可能(パッドバンク経由) x 8
ノブ	360° タッチセンシティブ Q-Link ノブ x 16 270°ゲイン、ミックス&レベル調整用ノブ x 7 360° 回転データダイヤル x 1
ボタン	(63) 専用機能ボタン
ディスプレイ	257 mm (対角) 216 x 139 mm (幅 x 高さ) タッチ・インターフェイス付き フルカラー LED バックライト付ディスプレイ
CPU	プロセッサ： 1.8 GHz クアッドコア ARM® Cortex® A17 プロセッサ RAM： 2 GB ストレージ： 16 GB(ユーザーストレージ、 10 GB プリインストール・コンテンツ)、 4 GB (MPC オペレーティングシステム)
端子	XLR+1/4"TRS 入力端子 x 2 TRS 標準フォン入力端子 x 1 セット TS 標準フォン入力端子 x 2 TRS 標準フォン出力端子(L/R、3~8) x 1 セット、6 ヘッドホン端子 x 1 ステレオミニ・ヘッドホン端子 x 1 RCA 入力端子(L/R、PHONE/LINE 切り替え) x 1 セット 5 ピン MIDI 入力端子 x 2 5 ピン MIDI 出力端子 x 4 1/8"CV/ゲート出力端子 x 8 1/4"TS フットスイッチ入力端子 x 2 USB タイプ A 端子 x 2 USB タイプ B 端子 x 1 SD カードスロット x 1 電源アダプター端子 x 1
電源	電源アダプター経由 (19 V、 3.42 A、 センタープラス、 付属)
サイズ (幅 x 奥行 x 高さ)	約 50.5 x 42.4 x 8.7 cm (ディスプレイフラット時) 約 50.5 x 38.8 x 21.4 cm (ディスプレイ直立時)
重量	5.66kg

仕様は予告なしに変更されることがあります。

商標とライセンス

Akai Professional および MPC は、inMusic Brands, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。ARM および Cortex は、ARM Limited(またはその子会社)の EU またはその他の国における登録商標です。SD および SDHC は、SD-3C、LLC の登録商標です。他のすべての製品名、会社名、商標、または商号は、それぞれの所有者のものであります。

無料修理規定

1. 保証期間内に故障して、無料修理をご依頼の場合は、お買上げの販売店にご依頼の上、本書をご提示ください。
2. ご贈答品などで本書に記入してあるお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には弊社カスタマー・サポート部へご相談ください。
3. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) ご使用上の誤り、及び不当の修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買上げ後の取付け場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - (ニ) 消耗部品を取替える場合。(例えば、カートリッジやベルト等)
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にご愛用者名、お買上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。

* この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社カスタマー・サポート へご相談ください。

*

保証書	
製品名：	
製造番号：	
ご購入日：	
保証期間：ご購入日から1年間	
お客様	販売店名
お名前：	ご住所：
ご住所：	
お電話：	電話：

inMusic Japan 株式会社 カスタマー・サポート

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビルディング6F

お問い合わせ：<http://akai-pro.jp/support/>

- ・ 本書の*印欄に記入のない場合は、有効となりませんので、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
- ・ 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- ・ 本書は日本国内においてのみ有効で